



# 国立大学リスクマネジメント情報

2014(平成26)年9月号

<http://www.janu-s.co.jp/>

## 特集テーマ

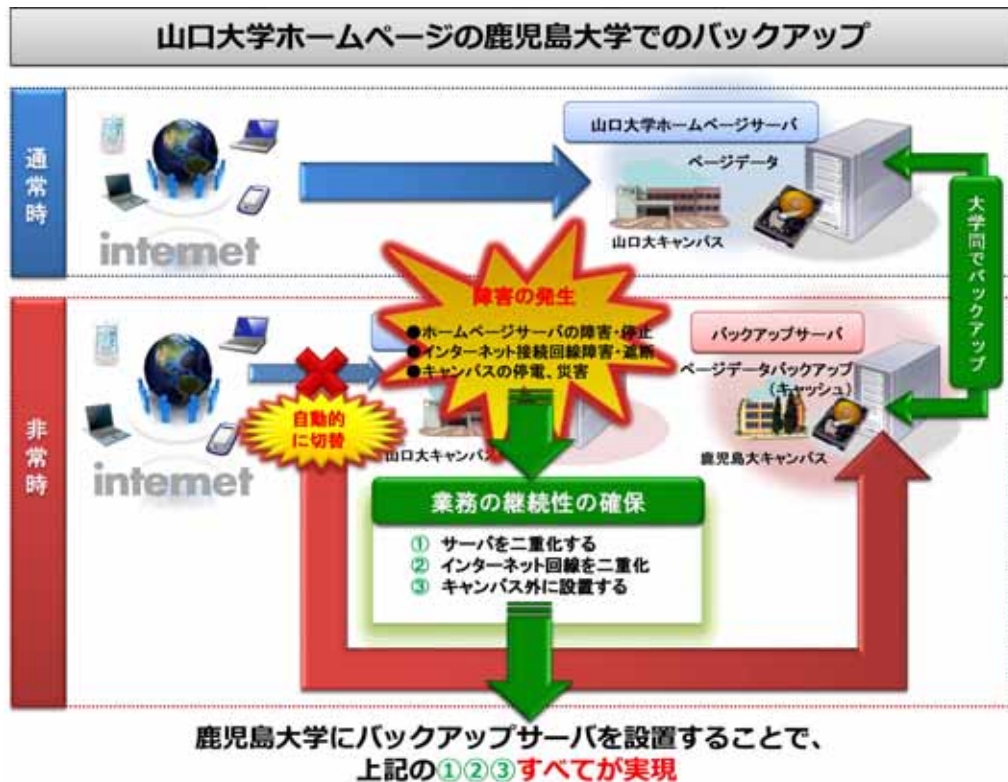
### 災害時の大学間の連携

前号では、国立大学協会（以下「国大協」）各地域支部での、大規模災害が発生した際の連携・協力協定を特集しました。その中でも、カウンターパートを決めた協定の例をご紹介しましたが、災害時の情報の喪失、サーバのダウンに対応するため、大学間で連携を行う取り組みが行われています。

本号では、災害時のデータのバックアップ、事業継続に向けた大学間の連携協定をご紹介します。

#### 1. 山口大学と鹿児島大学のデータバックアップ実証実験

山口大学と鹿児島大学は、両大学が運用しているサーバなどの機器やネットワーク等が災害等により使用不能となった場合に、学生等に向けての最低限の情報発信や大学の情報資産の保全等ができる仕組みの構築を目的として、両大学の連携の下に大学間データバックアップ実証実験を行うことについて、平成23年9月30日に同意書を締結しました。



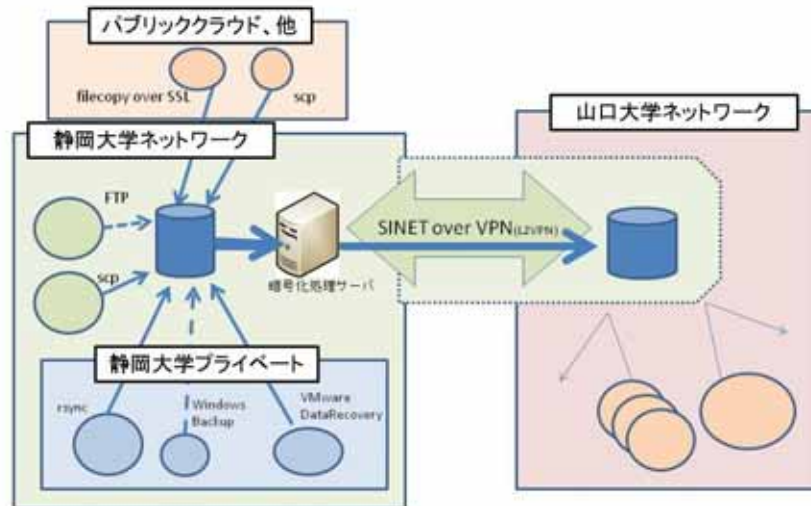
(山口大学ご提供の資料の一部を変更)



## 2. 静岡大学基幹業務システム群の山口大学でのバックアップ

静岡大学では、コスト削減、セキュリティ強化、環境負荷低減、事業継続の課題に対応するためクラウド化を推進していますが、国立情報学研究所（NII）が運用するSINETを利用したより万全な遠隔バックアップシステムとして、山口大学との間で、山口大学が提供するサーバ等に基幹業務システム（人事給与、財務会計、調達管理、授業料管理の各システム、グループウェア等）とデータを保存する合意書を平成24年3月19日に締結しました。

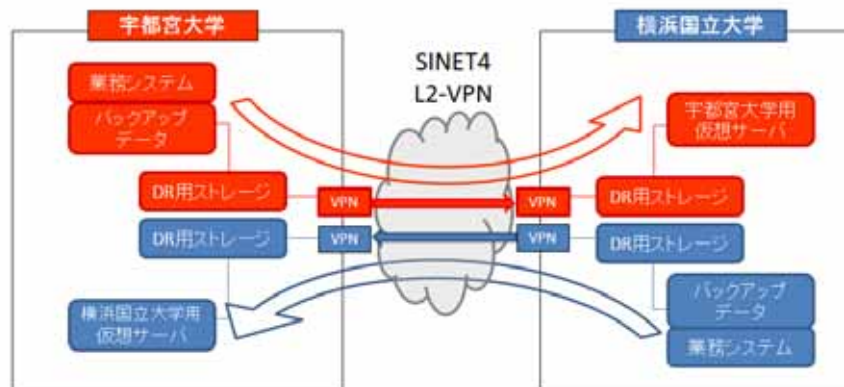
### 静岡大学⇒山口大学 遠隔地バックアップ ※



## 3. 横浜国立大学と宇都宮大学の情報戦略協定

横浜国立大学と宇都宮大学は、平成21年度から大学間のデータバックアップ体制を確立するための試験運用を積み重ね、平成24年4月16日、大災害などの緊急時においても最低限の大学機能を維持させる等の「国立大学法人横浜国立大学と国立大学法人宇都宮大学における大学情報戦略の協調に関する協定」を締結しました。

### 宇都宮大学・横浜国立大学間システム概要図 ※



※ 「先端的学術研究・教育推進のための学術情報基盤 ～学術情報ネットワーク（SINET4）活用事例集～」142頁、134頁（平成26年4月 国立情報学研究所）

⇒ <http://www.sinet.ad.jp/case/>



同協定では、

- ① 大学情報戦略に関する相互協力
- ② 大学情報資産の事業継続計画に関する相互協力
- ③ 大学情報セキュリティマネジメントシステムに関する相互協力

を主な実施事項として定め、情報戦略を大学の経営戦略へと展開し、BCM（事業継続マネジメント）を発展させることにより、大規模災害等へのさらなる具体的計画策定や教育・訓練等について協同して推進し、これまでにない災害に強い情報基盤を持つ大学を目指しています。

### 宇都宮大学の太陽光発電及び蓄給電設備

宇都宮大学では、環境に配慮したGreen ICT事業の一環として、平成21年、学内に太陽光発電及びDC（直流）蓄給電システムを設置しましたが、平成23年の東日本大震災では、広域で長時間発生した停電に対し、通信をダウンさせることなくネットワークを維持しました。

今年3月からは、同大学の2キャンパスで大容量コンテナ型蓄給電設備の運用を開始し、24時間以上のより長時間の停電にもネットワーク機能を維持できる環境を整えました。

また、同大では、学内に各キャリアの公衆無線LAN（Wi-Fi）を整備しており、災害時には、上記システムとの連動により、学生、教職員の通信確保が可能となります。



## 4. 東日本大震災における神戸学院大学と東北福祉大学の連携

東日本大震災では、日頃から防災・減災をテーマに連携した教育を行っていた神戸学院大学が東北福祉大学の学生の安否確認に協力しました。

安否確認のできない学生が多数いるとの情報を東北福祉大から得た神戸学院大は、専用電話、専用メールアドレスを開設し、大学ホームページに東北福祉大の学生の安否確認を行っている旨を掲載、マスコミに対しても発表し、ラジオやテレビニュースで報道されました。

また、神戸学院大は、震災発生時に関西にいた東北福祉大の学生について、同大と連絡をとり学内施設に受入れる措置をとりました。

このような連携がとれたのは、大学間の教職員や学生の日頃からの連携、コミュニケーションがあったからとされています。

⇒ 教育学術オンライン 平成24年12月 第2506号（12月5日）  
「災害時の広域大学間連携 神戸学院大学と東北福祉大学の事例から」（日本私立大学協会）

<https://www.shidaikyo.or.jp/newspaper/online/2506/index.html>



H26. 8 月

## 大学リスクマネジメント News PickUp

&lt;Web 上のニュースから検索&gt;

## &lt;大学の管理・経営&gt;

- 8. 12 ○大学が参画した研究プロジェクトで、市内の商業施設に人物照合用の複数のカメラを設置し、約3年8ヶ月にわたって買い物客らを無断で撮影を続けたことに対し、文部科学省は文書で厳重注意。
- 8. 25 ○大学病院で今年2月に男児が死亡した医療事故を巡り、同大医学部長を解任された教授が、解任は無効だと同大に地位保全を求める仮処分を東京地裁に申立。

## &lt;事件・事故&gt;

- 8. 28 ○大学付属病院は、入院患者の心臓につながる血管にカテーテルを入れた際、誤って血管外に挿入したため、患者が心停止する事故があったと発表。

## &lt;入試等ミス&gt;

- 8. 5 ○大学は、1月に実施した一般入試の国語の出題にミスがあり、24人を追加合格したと発表。5人が他大学から同大へ入学を決めた。
- 8. 22 ○大学は、大学院の入試で筆記試験の選択科目で出題ミスがあったと発表。受験生に合否の影響はなし。

## &lt;情報セキュリティ&gt;

- 8. 7 ○大学は、研究室、演習室に扉のガラスを割って何かが侵入し、延べ248人分の個人情報が入ったノートPC 2台と現金約7万円が盗まれたと発表。PCにはパスワードが設定。
- 8. 27 ○大学の教授が海外出張中に、関係者の氏名やメールアドレスなどの個人情報が保存されたノートPCを盗まれる。
- 8. 29 ○大学医学部付属病院は、患者1万3286人の個人情報(住所、氏名、年齢、電話番号、検査項目、病名など)が入ったUSBメモリーが院内からなくなったと発表。USBに保存することは禁じられていたが、守られていなかった。

## &lt;ハラスメント&gt;

- 8. 5 ○大学は、学生に私的な手伝いをさせるなどのアカハラがあったとして、准教授を減給(日給の2分の1)の懲戒処分にしたと発表。
- 8. 6 ○大学は、複数の学生に高圧的な表現を使って指導し、精神的な苦痛を与えるなどのアカハラ行為を行ったとして、教授を停職10日の懲戒処分。
- 8. 8 ○大学の准教授が、女子学生にセクハラをしたとして停職、降格を受けたことを不服として訴えた裁判の控訴審判決で、女子学生の証言は虚偽である可能性が高いとして大部分のセクハラを認定せず、大学側に処分の取消と減給分給与等計約700万円の支払いを命じた。

## &lt;学生・教職員の不祥事&gt;

- 8. 26 ○大学のアメフト部員の学生が、別の部員を金属バットで殴って大ケガをさせたとして傷害容疑で書類送検。

## &lt;不正行為&gt;

- 8. 20 ○大学と○大学の当時の助教授など3人が環境省からの研究費合わせて280万円余りを不適切処理し、別の研究で使う器具などの購入に充てていたことが判明。

## 配信について

本誌は、各国立大学・大学共同利用機関の国大協保険ご担当者、国大協連絡登録先、ご登録いただいた方にメールで配信させていただきます。(無料) 配信登録、解除は弊社ホームページからお願いします。⇒ <http://www.janu-s.co.jp/>

## 情報提供のお願い

各大学等でのリスクマネジメントに関する取組み、事故・事件への対応のご経験、ご感想、ご要望等をお寄せください。  
⇒ [info@janu-s.co.jp](mailto:info@janu-s.co.jp)

## バックナンバー

- 14. 8月 国立大学の地区災害連携協定
  - 14. 7月 賠償責任保険のポイント(2)
  - 14. 6月 賠償責任保険のポイント(1)
  - 14. 5月 財産保険のポイント
  - 14. 4月 国際交流活動対応支援セミナー報告
  - 14. 3月 研究に関する不正
  - 14. 2月 無給研究員等の事故と保険
  - 14. 1月 国大協保険次年度改定の概要
- ※弊社ホームページからダウンロードできます。

発行 有限会社 国大協サービス  
東京都千代田区神田錦町3-23

協力 株式会社インターリスク総研  
三井住友海上火災保険株式会社